

## 「有給休暇の考え方」

労働というのは個人にとって一番大切な「時間」を差し出して対価を得ることです。仕事の内容は様々で対価もそれに応じて違うのですが、「時間」が消費されることに変わりはありません。

労働と呼ぶのかわかりませんが、株式投資などのデイトレーダーにしても利益を上げるために膨大な時間をデータ分析に費やすわけですから時間をたくさん使う必要があります。

獲得した給料（収入）をどのように使うかは個人の自由です。車を買っても、ブランド物のバックを買っても、海外旅行に行っても、生活必需品を購入しても良いわけです。何にお金を使うかは、本人がお金を払う価値があると思うことが基準となります。

海外旅行にお金をかけたい人もいれば、エステにお金をかけたい人もいます。食べ物を買うことが最優先な人もいますし、税金など義務で払わなければならないお金で精いっぱいの人もいるかもしれません。もともとは自分の「時間」を削って獲得した対価ですから、貯めても使っても個人が考えるべきであり、用途は自己責任です。

会社には有給休暇と言って「休んでも給料を出しますよ」という期間が設けられています。外国では有給休暇の取得は当たり前で、長期の休暇を年度開始前に計画的に取ってしまいます。同僚は長期休暇が重ならないように調整します。

ところが日本では有給休暇を「病気になったら休むのでそのときに使う」人が多いようです。確かに病気は予測できないのである程度の休暇を残すことは必要かもしれませんが、「時間」を差し出さなくても対価が支払われるということは、タダでお金をもらえると同じ意味ですから、有休を取らずに捨ててしまうのはもったいないような気がします。

年をとると何が大事かわかります。それは「時間」です。世界一の富豪や権力者であっても自分の時間を取り戻すことはできません。お金で買えない、もっとも価値のあるものが「時間」なのです。

「時間」をお金に換えて、気がつく「時間」が足りなくなっているのは矛盾していますよね。価値観は人それぞれですからお金を得ることは悪いことではありません。それでも体を壊すまで働いて、お金を貯めて老後資金にして、気がつく「時間」を買い戻すことができないというのは人間という生き物の悲劇のような気がします。

少なくとも有給休暇ぐらいは全部取って、自分の時間を自分のために使うべきだと思います。